

第6学年東組 道徳の時間 学習指導案

学習指導者 竹森 大介

1 主題名 広い心で [相互理解・寛容]

2 ねらい 互いの意見や立場を大切にしながら、相手の気持ちを広い心で受け止め、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。

3 資料名 道子さんに出したパス (香川県小学校道徳教育研究会『わたしのいく道』6年)

4 ねらいとする道徳的価値と、それに関わる子どもたちの実態

子どもたちがよりよい人間関係を築き、他者と協力しながら生活していくためには、互いの気持ちや立場を思いやりながら、自分と異なる考えを受け入れていこうとする姿勢が大切である。特に高学年は同じような考えをもつ子どもどうしで集団を形成しがちな時期である。そのような時期だからこそ、考えや意見が合わないときに、一方的に自分の考えを押しつけるのではなく、相手の考えを尊重することで、相手の話を素直に聞く姿勢が大切である。そして、なぜそうするのかを相手の立場に立って考える態度を育てていきたい。

本学級の子どもたちは、6年生になり、自分たちで活動を企画し、実行していく機会が増えている。例えば、児童会活動や学級活動での企画、縦割り班での遊びや清掃活動等である。それぞれの活動後には振り返りを行い、そこで学んだことを道徳ノートに書き残している。教師は、その振り返りに対して、称賛するコメントを書くようにしている。そのような中で、友達と励まし合いながら、お互いの考えを取り入れて活動することができている一方、勝ち負けに関わること等、自分の思いが強く出るような場面においては、相手の考えを十分に聞かないまま相手の考えを否定してしまう場面が少なからず見られるのが現状である。

5 学習意欲を育て、他者と協働して考え続けるための働きかけ

(1) 体験・経験を生かして、自分と資料をつなぐ

子どもたちは体育の授業で、ソフトバレーボールを学習した際には、チームで勝つための作戦を話し合ってきた。その中で、チームの勝ち負けや作戦の成功、失敗にかかわらず自分の思いを無理に通そうとしてしまった経験や、相手の意見を受け入れることができた経験をしている。そこで、資料を読んで話の内容をつかんだ後で、作戦を話し合っている時の写真や、授業後の振り返りのことばを提示することで、登場人物と自分の気持ちがつながるようにし、自分のこととして考えていけるようにする。

(2) 集団内の多様な立場の存在を明らかにする

本時、めあてが出た後、登場人物の挿絵を指し示しながら、「登場人物全員の気持ちがすっきりしたのは、この中の誰のおかげだろう。」と発問し、どの登場人物だと考えたかを選択させる。子どもたちの考えはさまざまな登場人物に分かれるだろう。そして、選択した登場人物に挙手させることにより、多様な考えがあることを視覚的に捉えられるようにし、どうしてその人物を選んだのだろうという思いから対話への意欲を高める。そして、自分がその人物を選んだ理由をもって、対話に向かえるようにする。

(3) 迷いを実感したり多様な価値観を比較したりする

本時は、選んだ登場人物から、友達とよりよい関係を築いていくために大切なことを引き出した。例えば、かおりを選んだ理由からは相手の考えを受け入れること、たかしを選んだ理由からは、自分も失敗することがあると考えること等である。それぞれの価値を板書上に位置づけ、自分が大切だと思う価値を選ばせ、順序づけさせる。そして、どうしてその順序にしたのかという理由を話し合わせるようにすることで、さらに考えを広げていきたい。そして、自分が大切だと思う価値を順序づける活動を再度行い、全体対話では、自分の考えが変化したところや、話し合う中で新たに気付いたこと等を取り上げながら、自分の価値観を明確にさせていきたい。

6 学習指導過程

学 習 活 動	子どもの意識	教師の働きかけ
1 資料を読み、学習の めあてをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・初めはたかしかおりは作戦が失敗して怒っているね。 ・最後にはすっきりした気持ちになっているね。どうしてかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物が多いため、絵と言葉をつないで視覚的に関係性がつかめるようにする。
どうして作戦が失敗したのに、すっきりした気持ちになったのだろう		
2 気持ちがすっきりしたのは誰のおかげかを選択し、その理由を考える。 <つなぐ> <多様な立場> <ul style="list-style-type: none"> ・かおりを選んだ場合 ・たかしを選んだ場合 ・幸平を選んだ場合 	<ul style="list-style-type: none"> ・僕たちも試合をするとき等にはそういうことがあるね。 ・誰のおかげかというのは人によって考えが違っているね。 ・かおりは「確かに…」とあるから相手の意見を受け入れようと思っているね。その態度がすっきりした気持ちにつながったよ。 ・たかしは途中から「ぼくがシュートしても…」と言っているね。自分も外すときはあると思っていると思うよ。 ・幸平は自分の気持ちが言えて、受け入れてもらえたからすっきりできたんだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業の写真や振り返りを提示し、自分たちにも同じ経験があることを想起させ、登場人物の気持ちとつなぐ。 ・みんなの気持ちがすっきりしたのはどの人物のおかげかを問いかけ、挙手させることにより、多様な考えを視覚的に捉えられるようにし、対話への意欲を高める。
3 友達とうまく関係を築いていくための大切な考えについて話し合う。 <多様な価値観>	<ul style="list-style-type: none"> ・どの考えも大切だけれど、相手の意見を受け入れることが大切だと思う。相手がどんなことを思っていたのか、よく考えると、接し方が変わると思うよ。 ・誰でも失敗はあると考えたら、相手の失敗も許せそうだよ。 ・相手の言うことを聞くけれど、自分の考えを分かってもらえるように伝えることも大切だよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選んだ人物の思いから出てきた価値を出させ、板書上に位置づける。その後、「自分にとって、どの考えが大切ですか。」と問い、自分が大切だと思った価値を順序づけさせて、その順序にした理由を話し合わせる。 ・対話後に、再度順序づけする活動を取り入れる。そして、考えの変化等を基に全体対話を行い、自分の価値観を明確にさせる。
4 本時を振り返り、まとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの自分はあまり相手の意見を受け入れようとしていなかっただけで、相手の考えをよく聞いて否定しないようにしよう。 ・相手を責めてしまっていたな。自分もできないときがある、失敗するときもあると考えて、相手を責めないようにしたいよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時学んだことと今までの自分を比較しながら、学習のまとめを道徳ノートに記述させ、全体で交流することで、本時の学びを生活に生かしていきたいという道徳的実践意欲を高める。

7 評価

自分と異なる考えを受け入れようとしたり、自分にも弱い部分があると自己を振り返ったりしようとする気持ちをもっている。 [道徳ノート, 発言]

道子さんに出したパス

学 どうして作戦が失敗したのに すっきりした気持ちにならなかったっ

作戦失敗

何で作戦を守らないの。怒っている。

三三三 辛い、チームのふん気が悪い

た 敵 幸 道

かおり
まさる
たかし
幸平

道子

まさる
たかし
幸平

かおり

考えを受け入れる

まず聞いて理解することが大切

相手の考えが分かれば、相手の方が変わる

きちんとして謝る

すぐに謝ったり、ふんがが悪い、悪くならない

平等な立場で

どちらの考えも大切にする。

自分にもあると考える

失敗はあると考えていたら許せる

はきりと伝える

聞くだけでもいい

言うことで分かってくれる

相手の気持ちを受け入れられていなかった。まず考えをよく聞いて否定しない。

自分にも失敗はあると思えて責めることを減らしたい。

補助黒板

・チームワークが悪くて負けてしまった。

・連携がうまくいかず、もやもやしていた。

・今日は、チームとしてうまく動けた。



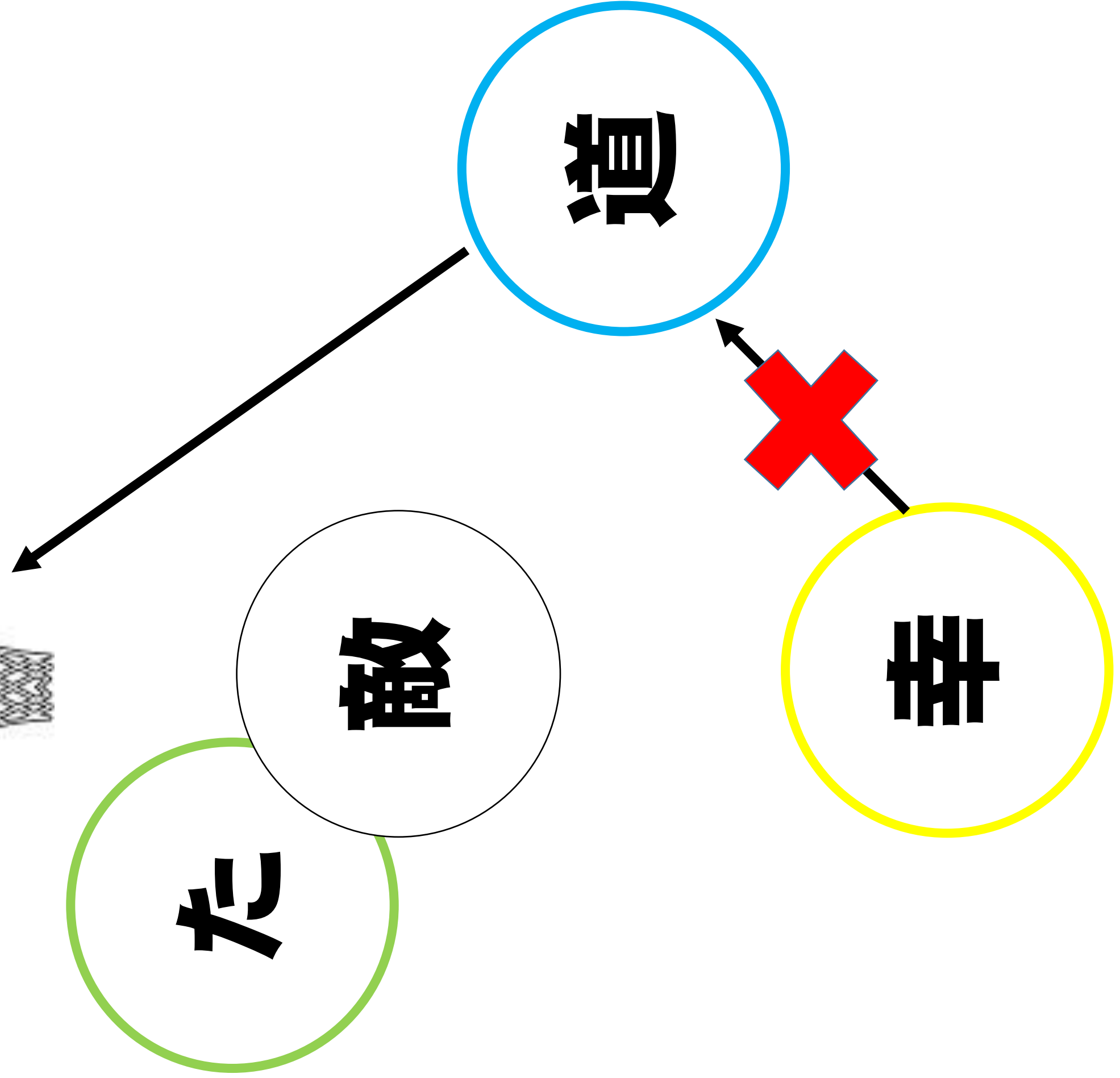
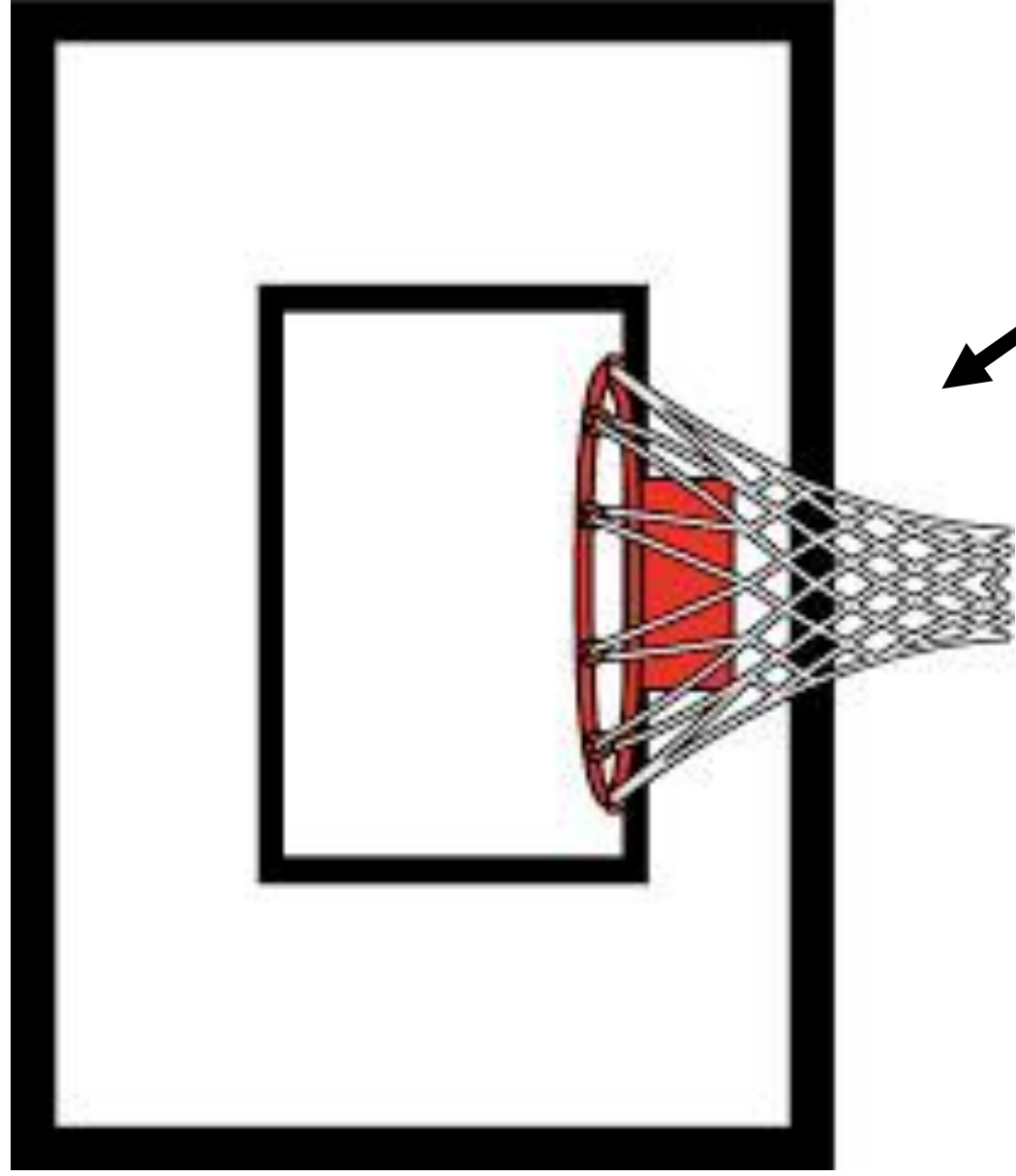
幸平

まさる

道子

たかし

かおり





幸平

まさる

かおり

たかし

道子

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

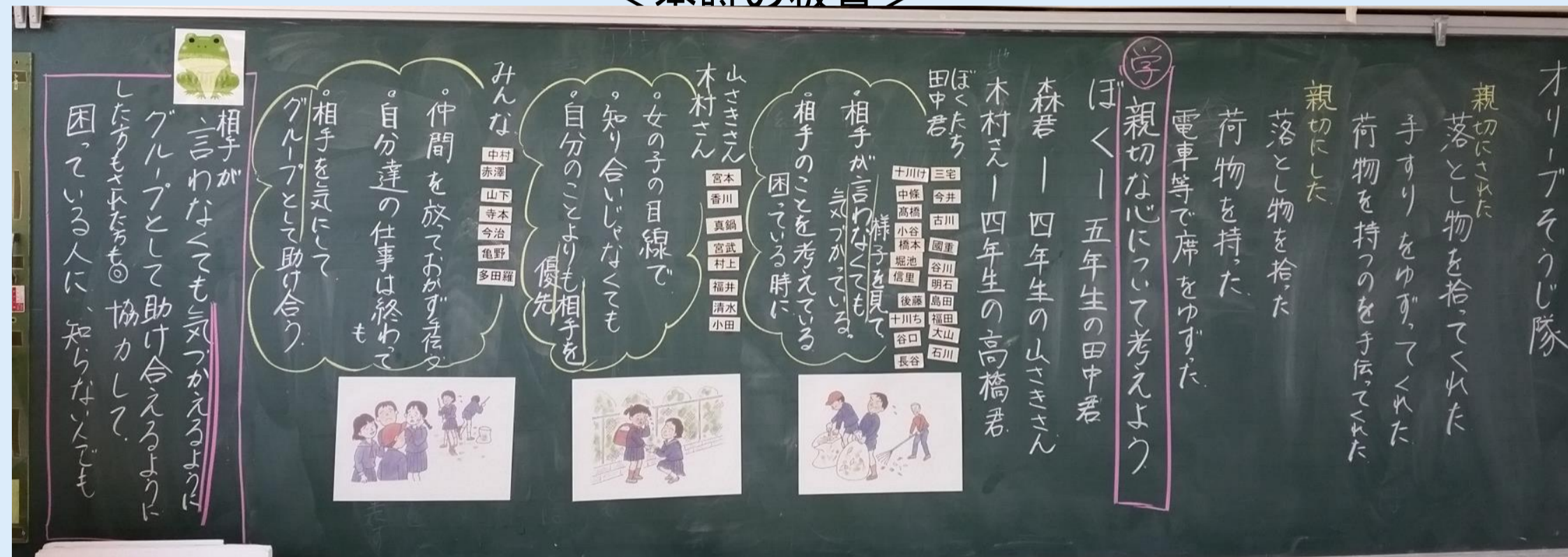
これまでの実践

主題名：思いやりの心【思いやり，親切】

ねらい：自分を取り巻くいろいろな人に対して，相手のことを考えた言動や親切な行いをすることの大切さに気付き，相手の立場に立って，温かい心を伝えていこうとする意欲を高める。

資料名：オリーブそうじ隊（香川県道徳教育研究会「わたしの いく道」）

＜本時の板書＞



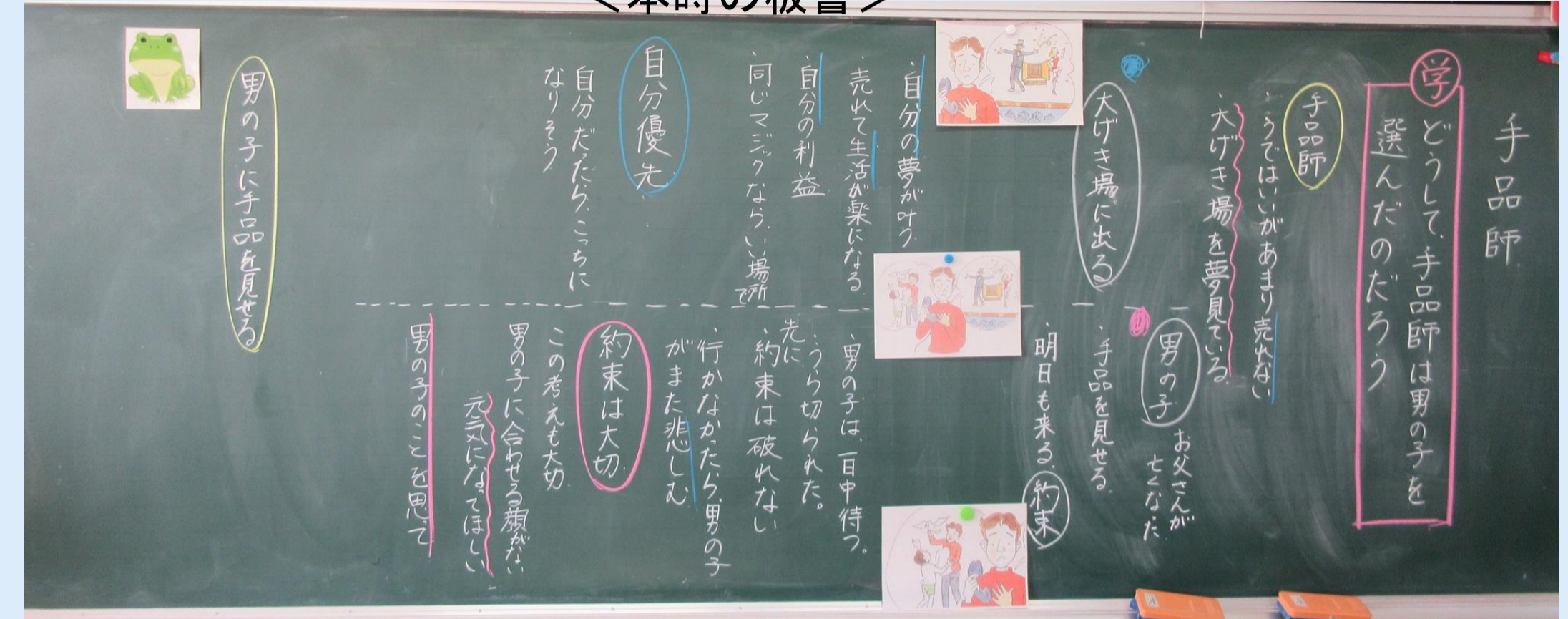
資料を読んだ後，3つの場面のうち，どれが一番親切だと思うかに名前磁石を貼り，自分の考えを明確にするとともに，自分と違う考えを聞きたいという思いを高め，対話へ向かいました。

主題名：誠実な行動【正直・誠実，明朗】

ねらい：男の子との約束と自分の夢のどちらを優先させるかを話し合うことにより，誠実に行動することのすばらしさに気付き，誠実に行動しようとする意欲や態度を育てる。

資料名：手品師（香川県道徳教育研究会「わたしの いく道」）

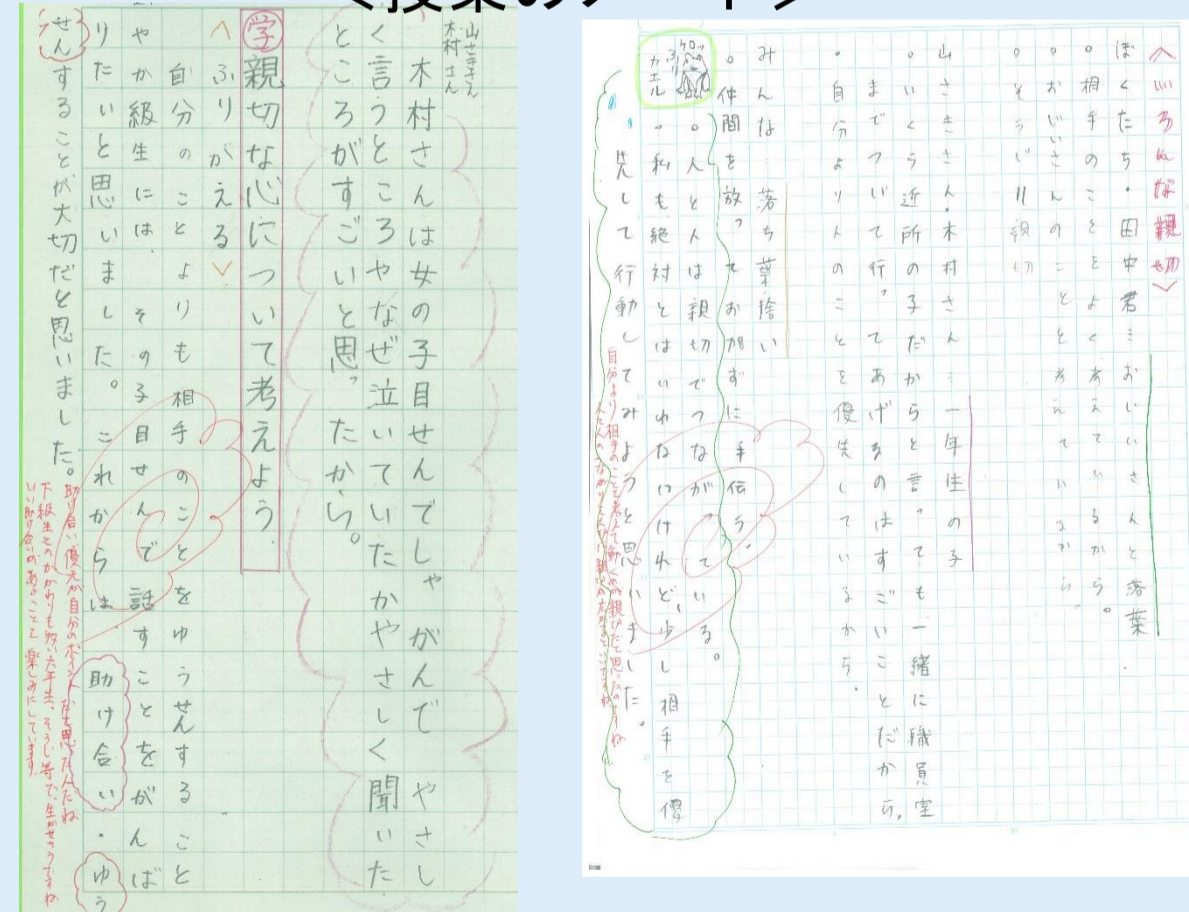
＜本時の板書＞



自分だったらどちらを選ぶか挙手させました。多くの子が大劇場での公演（自分の夢）でした。考えの違いから「何で？」とつぶやく子もいました。その言葉を拾いながら対話に向かいました。

ハートカードに今の思いを塗り分けさせ，再度対話をしました。どちらも大切と思いながらも一つに決めることの難しさを感じていました。

＜授業のノート＞



山崎さん・木村さんじゃないかな。知り合いじゃなくても助けてあげているよ。女の子の目線で話しているのもいいね。

ぼく・田中君だと思うよ。言われなくても動いているところがすごいよ。気遣っているんだね。

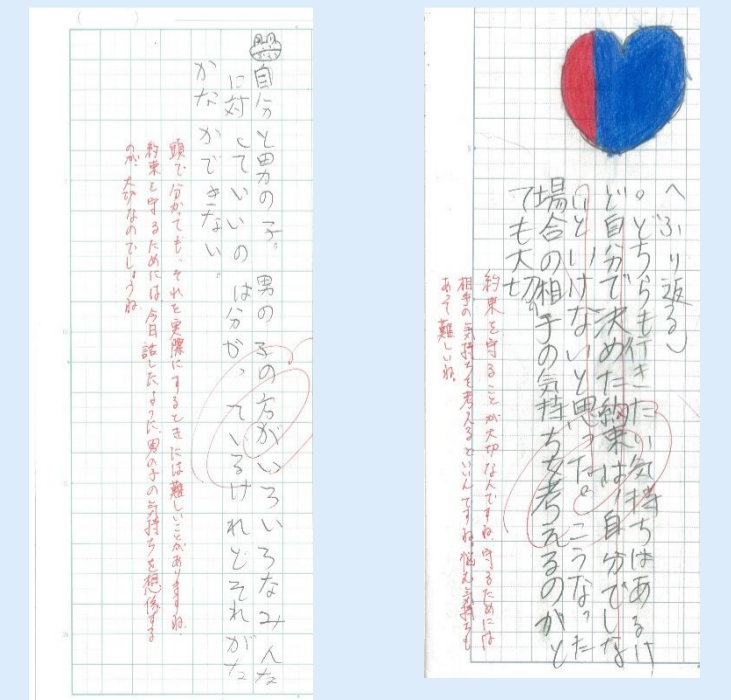
最後にみんなが，自分たちの仕事が終わったのに，遅れている子を助けたのも言われなくてもしているから同じだね。

ノートには相手を思いやって優先することの大切さ等が書かれていました。実際の生活場面ともつなぎながら考えている子も多くいました。



でも先に男の子と約束したんだよ。自分が行かなければ悲しむよ。男の子はこの手品師を待っているんだよ。

もうこんなチャンス来ないかも知れない。自分の夢をかなえるチャンスだから，そちらにいくよ。

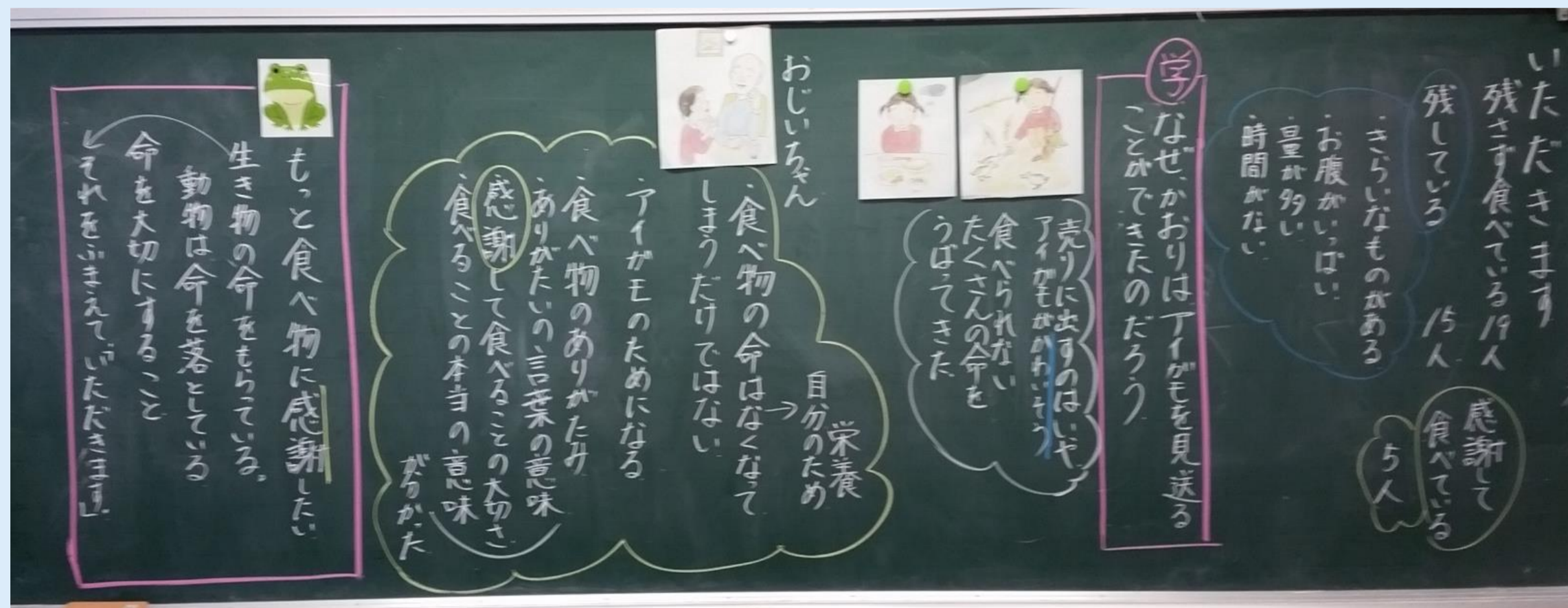


主題名：尊い命【生命尊重】

ねらい：多くの動植物の命を頂くことで私たちが生かされていることに気づき、それらの命に感謝して生活しようとする心情を育てる。

資料名：いただきます（香川県道徳教育研究会「わたしの いく道」）

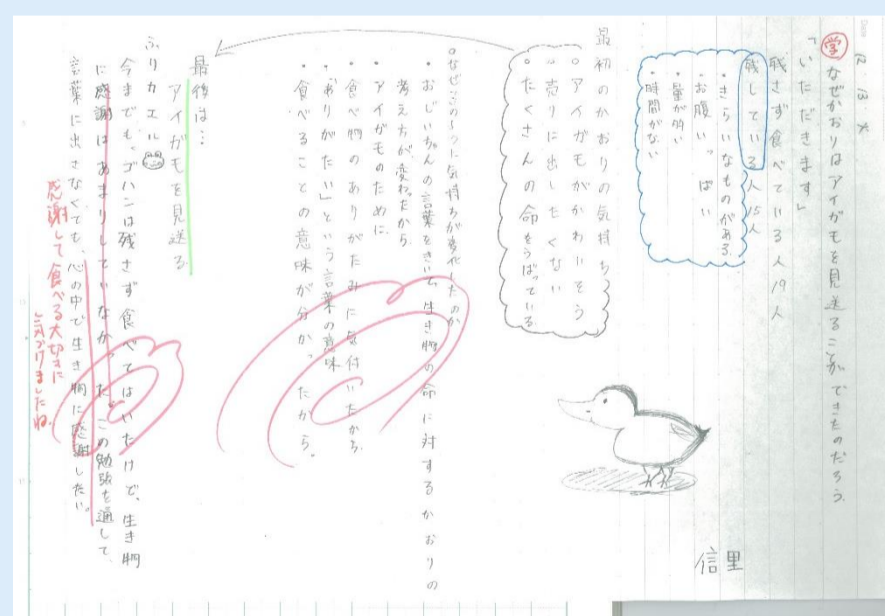
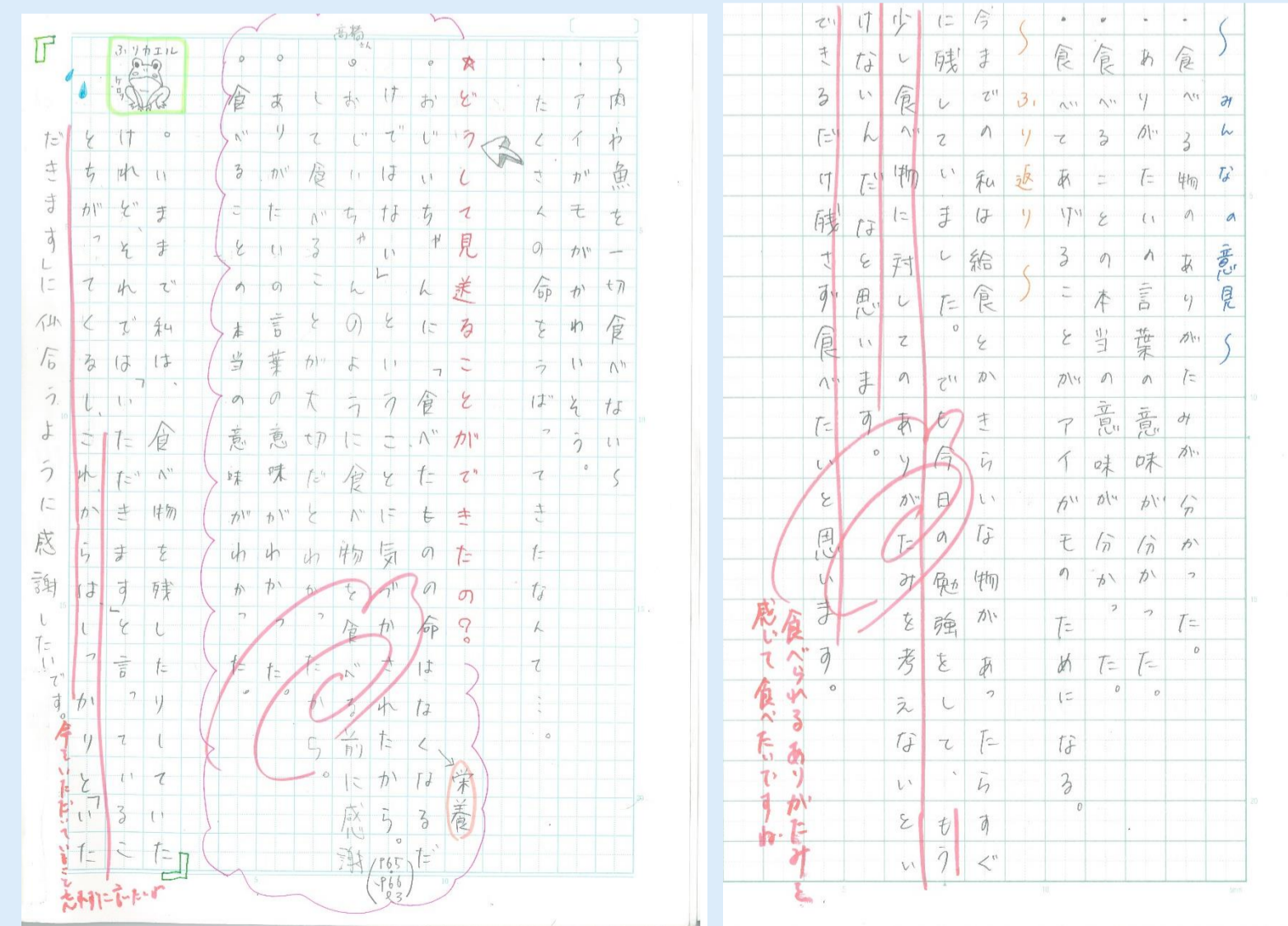
＜本時の板書＞



まず、現在の自分についてのアンケートから普段の生活とつないで考えられるようにしました。

その後、資料の主人公の変化から、なぜ、合鴨を見送ることができたのかという学習課題を設定しました。

＜授業のノート＞

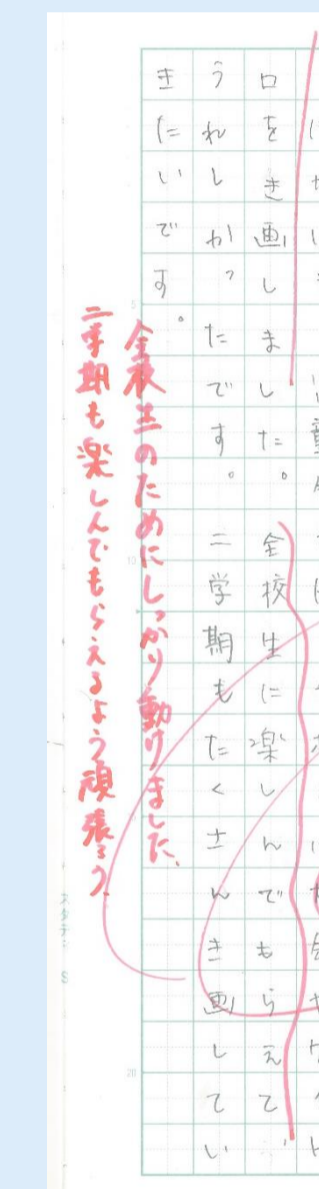
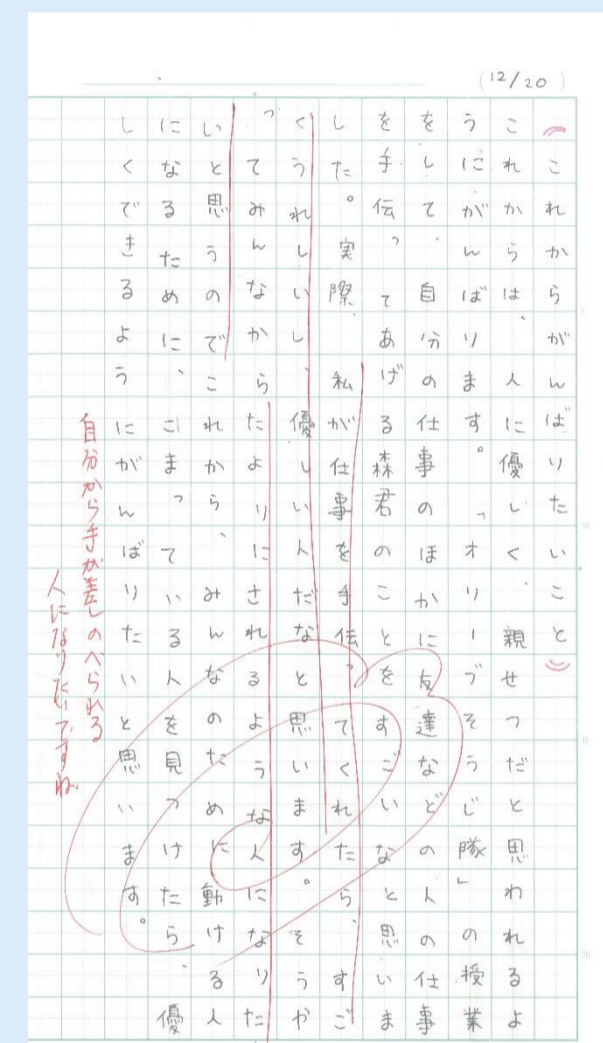


これまでの自分の行動を振り返り、本時の学習とつないで考えられていました。多くの子どもが、命を頂くことのありがたさを感じて自分の思いを書いていた。

日常の取り組み

学期毎の長期の振り返りを書かせるようにしています。これまでの自分を振り返って成長したところや、これからの課題をはっきりと捉えられるようにしています。教師はそれを見取り、肯定的な言葉を返すようにしています。

また、その時その時の思い出の写真（左は1学期のお楽しみ会）を貼らせることにより、よりノートへの愛着を高めたり、想起につながるようにと考えています。



講演等がある場合は、その話をメモできるようにノートに書きながら話を聞くようにしています。例えば左の写真は、香川大学の長尾学長が生き方について話してくださったものです。

2学期には中学校の先生のお話や、情報モラルのお話などもありました。自分の生き方・考え方とつながる部分も多くあり、子どもがどんなことを考えたのかを見取っています。

